



福島小学校だより

ふくしま

ホームページ <http://www.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>

No. 6

令和8年8月25日



始業式でこのようなこととお話ししました

校長 嶋田 暢也

夏休み前に配付した学校からのお知らせ「楽しい夏休みに（7月17日）」の中に、「日ごろ学校生活ではできない体験や学習をする機会をつくって欲しいと思います。」という一文がありました。皆さんは、どのような夏休みを過ごしましたか？

私は、日ごろの学校生活ではできていなかった学習に挑戦しました。その内容とそれから学び、大好きな皆さんに伝えたいこととお話させていただきます。

私には有難いことに、「とても素敵なサポーター」がいます。前任校で教頭をしていた時に紀州の素晴らしい木材について私に説明してくださり、そのサンプルを中学生が見て触れるようにと提供してくださったことから始まりました。福島小学校に転任した後も、わざわざ福島小学校にまで来てくださり、生き物の情報や和歌山市の航空写真を提供してくださるなど、本当に有難い存在の方です。

その素敵なサポーターの方が、夏休みに入ってから戦争について私が学ぶことができる機会を提供してくださいました。7月下旬に和歌山市立博物館で行われた戦争についての展示と、戦争を生きた方の語りの機会があることを教えてくださいました。また、ガーデンパーク2階で行われていた戦争での写真やその解説の展示と和歌山大空襲について解説する動画があり、私はそれらを見させていただきました。解説動画の中で、和歌山市だけで10数回程度（和歌山県全体では、総務省の記録で49回、別の記録では、和歌山が爆撃機の通り道になっていたため、ついでに爆弾を落とされたり銃撃されたりしたケースを含めると200回を超えるとの記録もある）あったと解説がありました。

これらのことをきっかけにして、私が学んだことや考えたことから、小学生の皆さんに伝えたいことを以下のようにお話ししました。

みなさん、おはようございます。長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。皆さんは、素敵な夏休みを過ごして元気に学校に登校してくれたことと思います。2学期には色々な行事と一緒に過ごして、一緒に感動を味わって、充実した2学期にしたいと思っています。これからのことを考えるとワクワクして幸せな気分になります。

さて、2学期の生活を過ごしていく上で大切にしたいこととお話させていただきます。皆さんには、自分の気持ちを言葉で伝えること。そして同時に、相手の「なぜ？」をじっくり聴くことで、お互いが「これならいいよ」と納得できる『新しい答え』を、言葉を使って一緒に見つけ出すこと、つまり「対話」を頑張りたいというお話します。

8月15日は「終戦の日」でした。今から80年以上前、日本でも大きな戦争があり、たくさんの尊い命が失われました。テレビやニュース、本などで、戦争の悲惨さや怖さについて目や耳にした人もいられるかもしれません。戦争は、絶対に起こしてはいけないものです。今、平和な日本に生きる私たち小学生や大人は、戦争をなくすために何ができるのでしょうか。

戦争は、ある日突然、遠い国で勝手に始まるわけではありません。実は、私たちの心の中にある、ほんの小さなすれ違いから始まります。「自分の思い通りにしたい」「相手を力で従



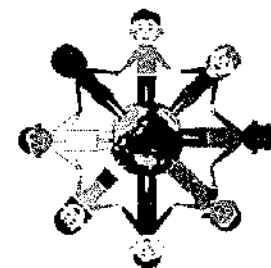
わせたい」「あいつが間違っている」という気持ちが大きくなり、暴力をふるったり、武器を持って争ったりしたものが戦争です。学校の生活の中に目を向けてみましょう。

友達と意見が合わないとき、使いたい遊具やボールが重なった時、カッとなって叩いてしまったり、大声で「言うことを聞け！」と脅したりして、相手を無理やり従わせていないでしょうか。力や怖い言葉で相手を負かしても、本当の解決にはなりません。負けた人には悔しさや悲しさ残り、今度はその人が相手を攻撃したくなってしまふからです。このことを私たちは「喧嘩」や「トラブル」と言いますが、「小さな戦争」とも言えるでしょう。世界から戦争をなくすために、一番必要なもの。それは「対話」です。対話とは、自分の気持ちを言葉で伝えること。そして同時に、相手の「なぜ？」をじっくり聴くことです。「私はこうしたい。あなたは、どうしてそう思うの？」そうやって聞き合うと、「なるほど、あなたはそう考えていたんだね」とお互いの違いが見えてきます。どちらかが我慢するジャンケンではありません。「じゃあ、今回はどうしようか」「次は交代しよう」と、お互いが「これならいいよ」と納得できる『新しい答え』を、言葉を使って（対話を通して）一緒に見つけ出すこと。これが、平和をつくる力です。小学生の皆さんにも平和をつくる力があるのです。

学校は、勉強をする場所であると同時に、この「対話を練習する場所」でもあります。意見が違った時こそ、平和をつくる力を育てるチャンスです。力でねじ伏せるのではなく、言葉でつながる人になってください。2学期は、運動会、秋フェスティバル、遠足をはじめとして行事がたくさんあり、楽しいことがたくさんありますが、それと同時に些細なトラブルが起こることもあるでしょう。どのような時でも対話を通して、より良い行事にし、トラブルは解決し成長できる機会にして欲しいです。

最後になりますが、対話ができるようになるために大切なことのひとつをお話ししますね。もうみんななら校長先生が何を言うか想像できると思います。そうです。あれです。人にはどう努力しても好きになれない、苦手な人がいます。そのことは否定しません。校長先生にも苦手な人はいます。人だから、それは絶対あると思います。けれど、大好きになるのを目指すことはチャレンジしてもいいですよ。大好きになろうとチャレンジすると相手の気持ちや考えていることをわかりたくなるし、自分のことも相手にわかって欲しいと思うはず。そしてお互いが気持ちよく過ごせるようにどうしたらよいか考えることにつながりますよね。だからあえて言います。良かったらみんなも一緒に言って下さい。

みんなー。大好きー。ありがとうございますー。



保護者の皆様へ

今回は少し難しいお話をしましたが、保護者の皆様に協力していただきたいことがあります。子どもたちが「力ではなく対話で解決する心地よさ」を学ぶためには、私たち大人の姿が何よりの見本となります。大人が力や叱責で子どもを従わせるのではなく、一人の人間として言い分を聴き、一緒に納得できるルールを探る。そのご家庭や地域での温かい関わりが、子どもたちの「平和を築く力」を育みます。もちろん、我慢のためやしてはいけないことをした時には厳しく言い聞かすことも大切です。その両立は難しいとは思いますが、大人も子どもも、言葉で心を通わせる安心感を、この福島小学校で広げていきましょう。



8 月 9 月 の 学 校 行 事 予 定 で す

8/25 (火) 始業式	5 (土) 秋フェス実行委員会 (九頭神社)	21 (月) 敬老の日
26 (水) 体測4年、1年2組	7 (月) 委員会	22 (火) 国民の休日
27 (木) 体測3年、1年1組	視力検査3年、6年	23 (水) 秋分の日
夏休み作品展 10:00~16:00	加太合宿保護者説明会 (16:00~)	25 (金) スクールカウンセラー来校
28 (金) 体測5年、2年	9 (水) 視力検査1年2組	28 (月) 日本製鉄見学5年
夏休み作品展 9:00~16:00	11 (金) スクールカウンセラー来校	30 (水) 2年1組研究授業
スクールカウンセラー来校	15 (火) 短縮校時 就学時検診	2年1組以外 13:20頃下校
31 (月) 夏休み作品展搬出	5年1組以外 12:55頃下校	2年1組 14:35頃下校
ALT 来校	5年1組 15:00頃下校	
生活リズムチェック~9/4	16 (水) 5年1組研究授業	
9/2 (水) 体測6年	5年1組以外 13:20頃下校	
3 (木) 視力4年、1年	5年1組 14:35頃下校	
4 (金) 視力5年、2年		

10 月以降の主な行事

10月

- 2 (金) ALT
- 6 (火) ALT
- 7 (水) 和歌山市教育委員会訪問
- 4年1組以外 13:20頃下校
- 4年1組 14:35頃下校
- 9 (金) スクールカウンセラー来校
- 17 (土) 運動会 (18 (土) 予備日)
- 20 (火) 21 (水) 加太合宿 (5年)
- 22 (木) 喫煙防止教室 (3年・5年)
- 23 (金) 運動会振替休業日
- 30 (金) スクールカウンセラー来校
- 31 (土) 土曜参観 秋フェス



11月

- 2 (月) 土曜参観振替休業日
- 10 (金) 遠足 (1・2・3・4・年)
- 19 (木) ALT
- 20 (金) スクールカウンセラー来校
- 26 (木) 緑育体験 (5年)

12月

- 11 (金) スクールカウンセラー来校
- 15 (火) 16 (水) 修学旅行 (6年)
- 18 (金) スクールカウンセラー来校
- 23 (水) ALT
- 24 (木) 2学期終業式

1月

- 6 (水) 3学期始業式
- 15 (金) スクールカウンセラー来校
- 29 (金) スクールカウンセラー来校

2月

- 12 (金) スクールカウンセラー来校
- 25 (木) 6年生を送る会
- 26 (金) スクールカウンセラー来校

3月

- 12 (金) スクールカウンセラー来校
- 17 (水) お別れ式、卒業証書授与式
- 24 (水) 3学期終業式
- 31 (水) 離任式



※ コラム「私たちの何気なく過ごす1日は、昨日亡くなった誰かがどうしても生きてかった、かけがえのない1日」 → 1日1日を大切に、機嫌よく、ワクワクして過ごして欲しい。

学校教育スローガンにある「福島小学校は、児童・保護者・教職員が幸せを感じるための学びが溢れる学校を目指します」の実現のために、この学校のリーダーとして自分に何が出来るか、本を読んだりYouTubeの動画を視聴したりして、自分なりに学び考えています。また、先述のとおり戦争について学ぶ中で特攻隊員の遺書を読むこともありましたが、その学びの中で印象に残ったお話を紹介します。病氣により8歳の若さで亡くなった宗一郎君のお話です。(一部抜粋)

銀河の夜明け | ひすいこたろうオフィシャルブログ より

<https://ameblo.jp/hisukotarou/entry-12691785582.html>

息子、宗一郎のお話をしますね。彼は平成10年3月31日、光の世界に帰りました。最後の3カ月は病院ではなく自宅で過ごしました。そのときの私たちは必死でした。なんとか病気を治して元気な宗一郎になってほしかったんです。でも、いまから思えばもっともっと一緒に楽しんであげればよかったと思います。日に日にやせ衰え、痛みを苦しむ息子を私たち夫婦は精一杯看病しました。

自分では歩くこともできない息子を背中におんぶしてお風呂にそのままの姿で入ったとき、痛みが少しやわらいだ息子の顔はとても幸せそうでした。支えている私も泣きながら、お風呂につかっていた。いてくれるだけでうれしい！生きていてくれるだけでありがたい！

夜は私と妻の間になって寝るのですが、30分ごとに訪れる痛みをやわらげるために、私たちは宗一郎の体の位置を変えて、さすってやりました。正直いってとても辛かったです…でも…いてくれるだけでいい…。彼がいなくなることが怖かったんでしょうね。

辛い痛みのなかでも、できるだけ私たちに笑顔を見せようとしていた子でした。

「おかあさん、ごめんね」

「もっと元気だったらおかあさん、おとうさんも疲れないのにね」

「おかあさん、ぼくもっと生きたいよ！」

でも、もう、これはいけないと思い、病院へ連れていく車の中で意識があまり定かではない宗一郎がこう言ったんです。

「おとうさん、おかあさん、信じあって、助けあって、分かり合って生きてゆくんだよ」

「悲しいときや苦しいときほど、笑うんだよ」

「自分をせめることが一番いけないんだよ」

などと強い口調で私たちに言うのです。病院での最後のとき…声にならない声で言った宗一郎の最後の一声(ひとこえ)が…「ありがとう」なんです。

それまで全身の痛みで抱くことができなかったのですが、最後は母親に抱かれながら静かに息をひきとりました。宗一郎君の夢は、「大人になること！」だったそうです。

「みんなと一緒に学校に行きたいな。」「お父さんとお母さんと美味しいご飯を食べたいな。」「等、これらは、限られた命の時間を生きている子どもたちの、したいこと。いつか、どうしても叶えたいと思っている夢だそうです。

私たちが何気なく過ごす1日は、昨日亡くなった誰かがどうしても生きてかった、かけがえのない1日。過去に亡くなった方々が、未来はこうなっていて欲しいと願った1日。私たちはその人たちの夢の中を生きています。仕事をしたくても、できない人がいる。学校に行きたくても、行けない人がいる。今日1日を生きていることに感謝して、今日1日を喜んで生きていきたいと思いました(常にそういう気持ちで頑張るのは難しいですが、挑戦します)。保護者の皆様へ、家族がいること、それは素晴らしい奇跡だと思います。子育ては「未来を創る行為」です。最高のクリエイションであり、究極の創造です。だからこそ、楽しみましょう。(終わり)